



第164回芥川賞受賞&
2021年本屋大賞ノミネート作品

あらすじ

あかりは学校とも家族ともうまくいっていない女子高生。唯一の生きがいは、8歳年上の男性アイドル真幸を"推す(応援する)"こと。

ある日、真幸がファンを殴るという事件が発生し、炎上したことから、あかりの「推し」のための日常に大きな変化がおとずれる――。

スタッフ

脚色/宮本敦 演出/奥洞昇 美術/齋藤裕子
音楽/茨木新平 照明/永山康英 効果/サカイヒロト
制作/隅田芳郎

第23回鹿児島県高学年子ども芸術祭典 巡回公演作品 (2024年10月～12月 全22公演)

「親の目線で 何も考えてない心配なうちの子…の中で、こんなに苦しんで必死にいているのかもしれない事に涙ができました」
(アンケートより)

上演にあたって

「推し」という現代性のある題材を入口にして、若者の生きづらさ、思春期の心身の問題に向かい合います。

生きづらさは、色々な形があり、心身を自身でコントロールし続ける事は当たり前のことではありません。そのことはコロナ禍を経てさらに顕著になり、思春期の心身コントロールはますます大変な時代になりました。一見当たり前に見える社会生活を送る事の難しさや、自分自身との折り合い、それらを抱えながら、いかに喜び・希望を持って生きるか、懸命にあがきながら何かを見出そうとする姿を、主人公の立場に寄り添いながら人形劇で描きます。